

生活

ねこびたい
猫額の庭の小鳥たち

庭とも言えない我が家の小さな庭にも春がやって来た。「銀杏いちようは手品師・・・」と歌った詩もあったが、春の楓も手品師だったのである。葉を落とし晩秋に薄墨色になっていた細枝は、春を迎えて全てが見事な紅に変わり、朝露が列をなして宿った様はまさに真珠の玉簾である。

一昨日は「穀雨こくう」であった。東北の桜はこの前後から北上し盛りとなる。我々の感覚では桜が咲いてこそ春なのだ。野鳥たちが活発に動き出すのもこの頃である。私の家の近くに野鳥保護区の五百淵公園があり、そこには沢山の水鳥たちが集まる。ほとんどが渡り鳥である。

そこで鳥の話をし・・・私の茅屋で、書斎以上に好きなところは、南に面した二階のサンルーム（実は物干し部屋）である。冬、陽あたりが良く、夏、風通しが良いのである。それにも増して、眼下に小庭が一望でき、小川を挟んで竹林を借景にしたこの場所は、贅沢ぜいたくを通り越して天国に一番近いところだと思っている。しかも、幾種類もの小鳥たちが来て、無料で踊りを披露してくれるのだから、

言うことなしである。他人^{ひと}さまから見れば何の変哲もない風景かも知れないが、私は一番安価な楽しみと一人悦に入っている。

この小さな庭は、十年ほど前、ある庭師さん任せで出来上がったものである。「三年もすれば観られるようになります」と云われても、これが庭なの？と当時は自問せずにはいられなかった。庭は、ありふれた雑木林を根ごと掘り起こして来たものが、植えられているだけだったのである。

しかし、この庭は庭木の成長以上の、思わぬ客を連れて来た。野鳥たちである。周りには広い庭で立派な樹木のあるところも多いのに、なぜか小鳥たちはこの粗末な庭に立ち寄るのである。理由の一つとして蹲^{つくばい}での水浴が考えられるが、基本的に野鳥は雑木が好きなのである。

季節によって小鳥たちの顔見せ公演も変わるが、定住者は鶇^{ひよどり}で一組^{つがい}の番が数年前から強者の頂点に立っている。ヒヨドリは文字通り雑食性で何でも食べ、餌台に置いたメジロの好物のリングや梨を旺盛な食欲で、あっという間にたいらげてしまう。そのヒヨドリの天敵が小形の鷹の長元坊^{ちようげんぼう}でこれも小庭に現れる。長元坊が急降下して来るとヒヨドリは半日姿見せない。春はコゲラ、メジロ、ウグイ

ス、ムクドリ、シジュウカラ、ジョウビタキ、秋になるとツグミ、冬はモズが常連として姿を見せる。鷹揚おうようなキジバトや鶺鴒げんも来る。最強軍団はスズメである。群れで飛んできてヒヨドリが追っても、ものかは、逃げる集まるを繰り返し、最後はスズメの粘り勝ちとなる。

ヒヨドリで連想されるのは、源義経が一谷いちのたにの平家軍を襲撃しようとし、鷲尾三郎を先導として越えた難所の地名として知られている。

この山坂をヒヨドリ越えと呼ばれるようになったのは何時からなのか、もし、ここがその昔からヒヨドリ越えと呼称されていたとするならば、ここを駆け下ったのは義経が初めてではない。さらに、ヒヨドリは漢字で「鶺鴒ひよどり」と表記される。鳥の名にも種々あるが、ヒヨドリが何でも食するとはいえ「卑しい鳥」は少し可愛そうである。

卑しい鳥ならば最右翼に「掠鳥むくどり」がいる。掠鳥は素敵な名前を持っているにしては大群で行動し雑食である。夜の野営が集団であるためその下は糞で白くなる。街なかの厄介者なのである。もう一つ考えられるのは六甲の山並みは急坂だけではなく、登り下りが連続する。騎馬軍団が駆け下るには、東国武士と云えども勇気が要ったに違いない。そこで関しきの声は一段と高音となり、ヒヨドリの甲高い声を連想させたかも知れない。さらに、ヒヨドリは飛び方に特徴があ

る。風雨に拘わらず始めは鋭角に高く飛び、次の動きはその勢いで羽を動かさずに落ちるように飛翔する。この動きは上下動の大きい波形に見える。尾羽は体形の割りに大きく、従って方向転換も早い。このヒヨドリが北海道から本州に移る姿をテレビの画面で観たことがあるが、途中でハヤブサやチョウゲンボウに捕らえられる事はほとんどない。これは飛翔の速さと上下左右への運動能力が優れているからだと思われる。

唯一つ、このヒヨドリ君は、人間が大事に育てた果実を好物としていることだ。果実の種類を列举するまでもないが、「そろそろ食べごろだなあー」と言った翌日には果実の一つも無い。人間の言葉が分かるはずは無いのだが、人間もヒヨドリも同じ味覚を持った生きものなのだ。数えるほどしか実らないご馳走を食べられても、美声と舞いを披露してくれる鳥たちへの礼としては少ないかも知れない。

庭師さんは、私たち夫婦に小鳥たちを見せるために、この庭を作ってくれたのかも知れない。早春のぶな櫪のやわらかな新芽から楓の紅葉までそぞろ眺めては感謝している。青い鳥は、猫額の私の家の庭にも確かに来ていたのである。